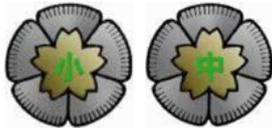


マレーシア・クアラルンプール日本人学校(2018～)

神田 哲

JSKL ホームページ <http://www.jskl.edu.my/>

	クアラルンプール日本人学校 学校だより	在マレーシア日本国大使館附属 クアラルンプール日本人会日本人学校 平成30年度 4月号 平成30年4月25日発行
<h1>JSKL通信</h1>		

入学・進級おめでとうございます

校長 神田 哲

ブンガラヤ（ハイビスカス）の花も色鮮やかなマレーシアにも、新学期の始まりである4月を迎えました。

いよいよ平成30年度が始まりました。先々週まで静かだった校内は、子どもたちの歓声が響き、活気を取り戻しました。子どもたちにとって、新しい担任の先生、新しい友だち、新しい教室、新しい教科書と新しい環境のもと、進級の喜びと新年度への期待にあふれていると思います。

本年度のクアラルンプール日本人学校は、幼稚部84名、小学部538名、中学部151名、全園児・児童・生徒773名、32学級、そして、教員（非常勤を含む）71名、事務スタッフ6名、ワーカー等の現地スタッフ14名、全教職員数91名です。14日には、在マレーシア日本国大使館公使参事官 折笠弘維様をはじめ多くのご来賓、保護者の方々にご臨席を賜り、中学部、小学部の入学式を挙行いたしました。中学部58名、小学部96名が入学しました。担任の一人ひとりの呼名の後、新たな学校生活に向け、希望を胸に、新入生全員が堂々と返事をしました。

平成30年度もクアラルンプール日本人学校すべての子どもたちが充実した学校生活になるよう、全教職員が一つのチーム「チームJSKL」として一丸となって、指導に努めて参ります。本年度も本校教育へのご理解・ご支援をどうかよろしくお願いいたします。

今年度から、本通信を「JSKL通信」とし、ホームページに掲載するだけでなく、全家庭にも配布する予定です。本通信を身近に感じ、学校の様子を少しでも伝えることができたかと考えました。1年間、よろしくお願いいたします。

さて、本題「JSKL通信」の右に小学部、中学部の校章を掲載しました。子どもたちにも保護者の方々にも、そして日本人コミュニティの方々にも、校章を身近に感じ、学校への誇りをもってほしいという願いからです。今回は、本校の伝統であるこの校章の由来についてお伝えしたいと思います。

昭和41年（1966年）開校の本校は、昭和43年（1968年）に校章が制定されました。校章の形は、外側の花は、マレーシアの国花「ブンガラヤ（ハイビスカス）」、内側の花は日本の国家「桜」を表しています。校章の色は、マレーシア特産の「すず」の色、桜の金色は、赤道直下の太陽を表す金色、小中の緑色はクアラルンプールの緑を表しています。【配布した通信は白黒ですので、カラー版はホームページをご覧ください。】本校章には、ブンガラヤ（マレーシア）の中に、桜（日本）、その中にクアラルンプール日本人学校ということで、赤道直下の緑濃い本校が、一層発展するという願いが込められています。校章に込められた願いのように、保護者、関係機関と連携を図りながら、子どもたちの成長を促し、充実した教育活動を展開することで、本校が発展するよう、全教職員一同、努力してまいります。





グローバル社会を生きる ～グローバル人材の育成～

校長 神田 哲

日本の大きな方向の一つとして「グローバル人材の育成」が挙げられます。政治・経済・社会等あらゆる分野で「グローバル化」が叫ばれています。これは、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国境を越えて高速で移動し、全地球的規模で捉えることが必要となってきたからです。そこで、学校教育で育成・活用していくべき要素として次のようなことが考えられます。

- (1) 語学力・コミュニケーション能力
- (2) 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- (3) 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ
- (4) 課題発見・解決能力、チームワーク、(異質な者の集団をまとめることのできる) リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等

本校では、小6、中3の修学旅行、小5、中2の宿泊学習、全学年の現地校との国際交流活動、見学活動や盆踊り等の校外活動等の体験活動を通して、マレーシアの自然、文化を体感するとともに、EC学習により身に付けた英会話を活用する場となっています。日本人学校だからこそこできる活動に取り組みながら、子どもたちにグローバル人材の育成としての視点を与えていきたいと思えます。

幼小中学部合同1学期終業式で転学する中3生徒が生徒代表で読んだメッセージです。本校での思い出とともに、国際社会に生きる自覚がよく伝わってきます。

ひまわり

僕のJSKLでの物語は小学校3年生で転校してきたときに始まりました。当時、僕は友達とひまわりの種を植えた畑のお世話をしていました。毎朝、学校に着いたら直ぐに畑に向かいました。早い者勝ちのくわとジョロを手にも雨の日も風の日も関係なく畑仕事をしました。土を耕し、水をちょうど良い量だけ与え、十分に日光を浴びて、ようやく咲いてくれたひまわりは僕の心の中を揺さぶりました。そして、もちろん種もつきました。その種は今見ているひまわりと同じものを咲かせる力がある、そう考えると今までに体験したことがないような感動の気持ちに襲われました。それからの学校生活は大きな行事だけでなく、日常のささいなことでも喜びにあふれていました。そう感じさせてくれるJSKLは僕の自慢の学校です。中学生になってからはサークル活動や行事がより本格的なものになりました。その忙しく、ピンチな状況の中で育まれたクラスの団結力や絆、友情はより強く、より深いものとなりました。バカができる仲間とたくさん話し、遊び、そして先生に怒られたときでさえも僕にとっての至福のひとつでした。

そして、この7年間のJSKLでの学校生活の中で最も印象に残った盆踊り。想像もつかないぐらいのスケール、約4万人もの観衆を、どうやったら日本の文化である太鼓の合奏が届くか、時間がない中、太鼓の音を耳だけでなく叩き方や姿勢など目で見て楽しませられるか考えて練習しました。本番ではおそらく一生に一度しかない約4万人の観客に囲まれた檣の上で本気で太鼓を叩くことができました。檣の上から見た観客は身振り手振りでも踊っていたり、太鼓の演奏を見て笑顔で応援したりしてくれました。その観客は違った宗教を信じ、文化をもっていますが、太鼓の音が鳴り響いていたその瞬間は、みんなの心が一つとなっていました。その時に僕は国際社会に生きる人としての自覚が芽生えました。

この7年間、日本でできなかった貴重な体験をし、いろいろなことを感じて、学ぶことを可能にしてくれた親、先生方、友達、先輩方、そしてスタッフさん、全員に感謝しています。そして、JSKLに残る人は今あるものに感謝し、国際社会に生きていく人としてのこの時間を大切にしてください。

僕がJSKLで咲かせた花は、今、種をつけています。この種を皆さんに託すので、次は皆さんがこの種を植え、そして大切に育て、立派な花を咲かせてください。

	<p>クアラルンプール日本人学校 学校だより</p> <h1>JSKL通信</h1>	<p>在マレーシア日本国大使館附属 クアラルンプール日本人会日本人学校 平成 30 年度 2 月号 平成 3 1 年 2 月 1 日発行</p>
---	--	--

キャリア教育 ～JSKLだからこそ～

校長 神田 哲

ある日の夏休み、私が車椅子で移動していたときのことで。自分で車輪を回している私を見かけ、中学部男子 2 人が階段から駆け下りてきました。その時の会話です。

「押しましようか」「ありがとう」私は校長室で降り、お礼を言って入室しました。

しばらくの間、窓から人影がずっと見えています。出てみると先ほどの 2 人が車椅子のブレーキを修理していました。緩んでいたブレーキが見事に利くようになっていました。

「車椅子を押していたらブレークレバーが緩くなっているのに気がつきました。体の不自由な人の安全を守る車椅子が危険な状態であると思い、職員室で工具を借りて修理しています。なかなかネジに合う工具がなくて、時間がかかりました。」

「ありがとう。将来は理系ですか？」少し冗談交じりに聞いてみました。

「はい、理工学部に進学したいと思っています。将来は航空機やロケットを作るエンジニアになりたいと思っています。」

「どうしてそのように思ったの。そのきっかけは？」

「父はエンジニアです。父のようなエンジニアになりたいです。小さい頃、父と一緒に自転車のパンク修理をしたことがあります。そこで機械や工具に興味をもちました。」

「AI、ICTも大切だけど、アナログ、ものづくりも大切だから。がんばってね。」

キャリア教育とは「なぜ学ぶのか」、「なぜ学ばなければならないのか」、「何を学ぶべきか」を学ぶ学習です。自らの進路だけでなく、生き方を学ぶ学習です。



中学部 1 年では、「働く人から職業に対する考えや生き方について話を聞くことにより、自分の進路について考える機会とする」ことを目的に職業人講話を行いました。今年度は「Look East Policy」で日本に留学し、現在「AFjets」CEO のアムロさんをお招きしました。学校へは自前のヘリコプターでお越しになり、西グラウンドに着陸しました。日本で学んだ「真面目」「礼儀正しさ」「約束を守る」「時間を守る」を大切にして仕事をしてきたこと、何事にも興味をもって学ぶことをお話しいただきました。

中学部 2 年では、『生きる力』を身につけ、激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できるとともに社会人・職業人として自立していくことができる。働くことを実際に体験することにより、「勤労の尊さや意義を学ぶ」ことを目的に職場体験を行いました。現地幼稚園、美容院、スーパー、レストラン、ホテル、幼少学部等 14 箇所に分かれて体験をしました。たくさんの事業者様が快く協力してくださいました。



キャリア教育は働く人々を通して働くことの喜びと世の中の実態や厳しさの両面を学びます。働く人々とは、職業人講話や職場体験の方々だけでなく、すべての身近な大人であると思います。本校は義務教育の入口から出口までの 9 年間をお預かりしています。クアラルンプールならではの海外での特色を生かしながら、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現していくことを促していきたいと思います。また、保護者の皆様も、海外で働いているからこそ、お子さんにキャリア教育として伝えられることがあるように思います。

中学部生徒は本当によく挨拶をします。来校された方からもよくお褒めのお言葉を頂きます。小中学部とも素直に自分の気持ちを語ることができる、素敵なことだと思います。